



文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)

ダイバーシティが牽引する 地域活性化とイノベーション

～食・医療・女性のパワーが拓く未来社会～
令和5年度事業報告書



Contents

ご挨拶	・ 国立大学法人山梨大学 学長 中村 和彦 …… 2
	・ 国立大学法人山梨大学 理事 (男女共同参画・特命) 小林 明
	・ 国立大学法人山梨大学 男女共同参画推進室長 志村 結美
	・ シミックホールディングス株式会社 COO 大石 圭子 …… 3
	・ 株式会社はくばく 取締役管理本部長 田邊 征治
事業概要	・ 事業の目的 …… 4
	・ 実施体制 …… 6
令和5年度 主な実施内容	7
活動報告	
(1)ダイバーシティ研究環境整備	
・ クロスアポイントメント制度を活用した共同研究体制の継続および活動内容 ……	9
・ ダイバーシティマネジメント研修会 ……	10
・ 山梨大学男女共同参画講演会 ……	11
・ 【山梨大学】 キャリアアシスタント (CA) 制度 ……	12
産休・育休からの復帰支援制度 ……	13
論文投稿費と英文校閲費支援制度	
保育園との連携 ……	14
ワークライフバランスに関するアンケート調査 ……	15
(2)女性研究者の研究力向上とリーダー育成	
・ 共同研究 ……	20
・ 次世代リーダー育成企画 女性社長対談 ……	21
・ スキルアップセミナー ……	22
・ 若手研究者育成セミナー ……	23
・ 女性研究者研究報告会・交流会 ……	24
・ 【山梨大学】 地域貢献型研究支援 ……	25
Coの花フェロシップ ……	26
山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞 ……	27
女性研究者と中村学長との懇談会 ……	28
(3)女性研究者の上位職登用、裾野拡大	
・ News Letterの発行 ……	29
・ 事業実施組織 (Yamanashi Network for Diversity & Innovation) による委員会 第三者機関による事業評価委員会 (合同開催)	30
・ 科学技術振興機構 (JST) による中間評価 ……	32
・ 【山梨大学】 ロールモデル集「ナンダイResearchers」の発行 ……	33
○ 【共同実施機関】 シミックホールディングス(株)の取り組み ……	34
○ 【共同実施機関】 (株)はくばくの取り組み ……	35

国立大学法人山梨大学 学長 **中村 和彦**



本学は、令和2年度に文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」の採択を受けました。本事業は、共同実施機関であるシミックホールディングス株式会社および株式会社はくばくとともに、女性研究者育成を中心とした事業を展開しており、企業と大学間の活発な人事交流から、総合的なキャリアマネジメントの仕組みを織り込んでいることを特徴としています。

本学では、女性研究者の増員のみでなく、女性人材育成の拠点として地域に貢献することを目指し、様々な取組を行ってまいりました。

具体的な成果としては、大学全体で女性教員増員に向け各学部で新たな目標を設定し、女性教員の増加だけでなく、自然科学系や工学系の女性研究者の積極的な上位職登用が行われました。また、地域貢献型研究を行う女性研究者への研究支援により、地域に還元しうる研究成果が多く得られました。さらに、博士課程女子学生へのフェローシップ制度を制定することにより、優秀な女子学生の支援と育成を同時に行うことができ、フェローシップを受けた女子学生を本学助教に迎えることができました。

本事業により期待される、「女性研究者の活躍推進と地域社会への女性活躍の牽引」を実現するため、今後も多様な人材が意欲をもって、多様な価値観と自由な発想を源泉とする学術文化の展開に取り組み、その能力を遺憾なく発揮できる環境整備を継続していきたいと考えております。

皆様の一層のご支援とご協力をよろしくお願い申し上げます。

国立大学法人山梨大学 理事（男女共同参画・特命） **小林 明**



令和2年度から開始された本事業により、本学では、企業との人的交流が促進されただけでなく、多様な人材・多様な考え方が取り入れられやすい環境が着実に構築されてきています。それにより、「組織としてこうあるべき」とらわれすぎず、様々な意見を取り入れ、必要に応じて柔軟な研究環境を整備する体制もだいが浸透しているように感じています。

本事業を通じ、女性研究者のみならず、本学で研究・勉学に励む者、またそれらをサポートするすべての人材が、本学における様々な活動に意欲的に取り組める環境づくりを続けてまいります。

国立大学法人山梨大学 男女共同参画推進室長 **志村 結美**



ダイバーシティの推進をめざして、令和2年度から大学と企業が連携して、女性研究者への様々な支援や事業に積極的に取り組んで参りました。それらは少しずつ形となり、実を結びはじめていると自負しております。今後もより多くの女性がそれぞれの力をのびやかに発揮できる環境を整えていきたいと考えています。

また、このことは、地域で活躍し、地域に貢献できる女性研究者や技術者を育成することにも繋がり、さらには地域活性化にも大きく寄与できるものと考えております。より一層の連携を力強く進めていく所存です。

シミックホールディングス株式会社 COO **大石 圭子**



2023年は、新型コロナウイルス感染症が感染症法上の5類に移行し、さらに円安の影響を受け、急激にインバウンドが回復しました。改めて世界の人材との交流が活発になってきたことを実感しております。

国際社会の中の日本においても、競争力の向上とダイバーシティの促進は切っても切れないものになっております。女性が社会で活躍し続け、社会貢献と自己実現を両立できる社会が当たり前となり、真のダイバーシティ&インクルージョンが広がる社会となるように、当事業においてもシミックグループとして貢献していきたいと考えております。

株式会社はくばく 取締役管理本部長 **田邊 征治**



2023年は新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、様々な社会経済活動が本格的に回復してきました。しかしながら相対的に弱い円、様々な国際取引における買い負けなど、外的要因による物価高が進んでいます。また、ロシア・ウクライナ問題、パレスチナ問題などの地政学リスクにより「自国主義」がより現実化、正当化されつつあります。このような状況下で企業が競争力を高めるためにはバリューチェーンの川上部門の強化が必須です。特に研究開発部門がその価値源泉であることは周知のとおりで、当社にとって本事業への参加がその実現に寄与しております。

今後この事業への参加がより山梨県内の女性活躍に繋がることをうれしく思うとともに、当社も貢献できるよう引き続き後押ししていきます。

事業の目的

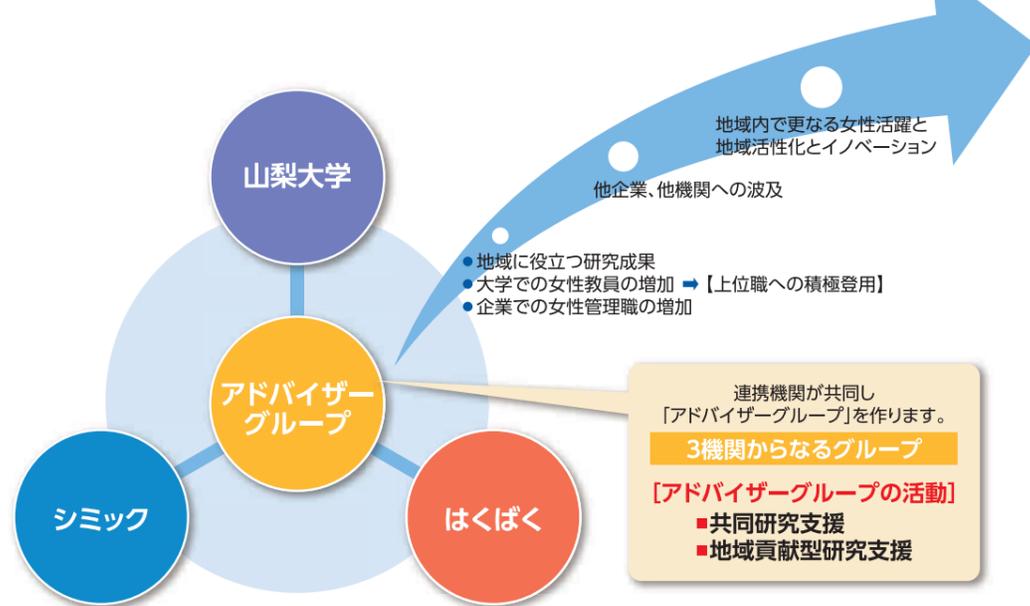
令和2年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」に採択されました。山梨大学、シミックホールディングス株式会社、株式会社はくばくの三機関が連携し、地域のダイバーシティ環境の牽引を目指した各種の取り組みを進めます。

本事業の骨子は、クロスアポイントメント制度による大学と企業内の女性研究者の活発な人事交流の促進と、女性研究者を代表とする共同研究と地域貢献型研究への支援です。

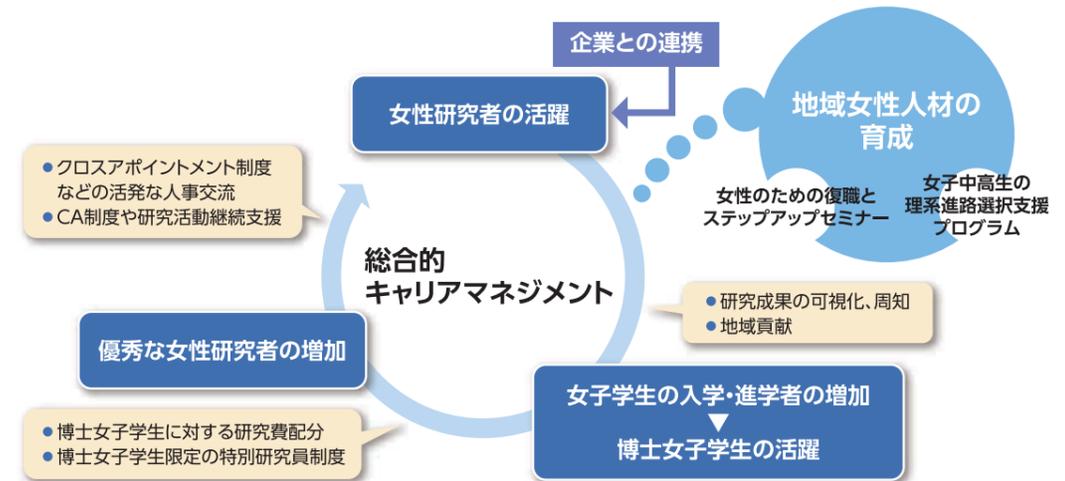
特に共同研究の推進においては、「アドバイザーグループ」により、女性研究者の研究活動を確実にサポートします。また、共同研究への大学院女子学生の積極的な参加を促すとともに、博士課程へ進学する女子学生への各種支援も用意して、地域を担う若手女性研究者の活躍による、地域イノベーションモデルの創造を目指します。

地域での取り組み

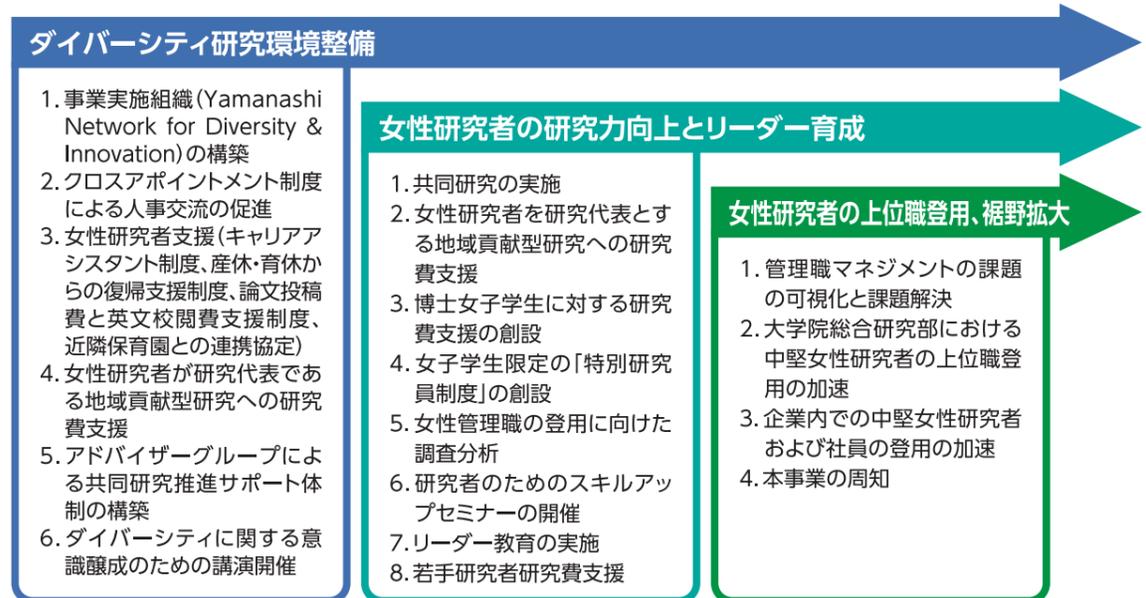
地域で活躍し、地域に貢献できる女性研究者・女性技術者の育成



総合的キャリアマネジメントの循環



環境支援と整備

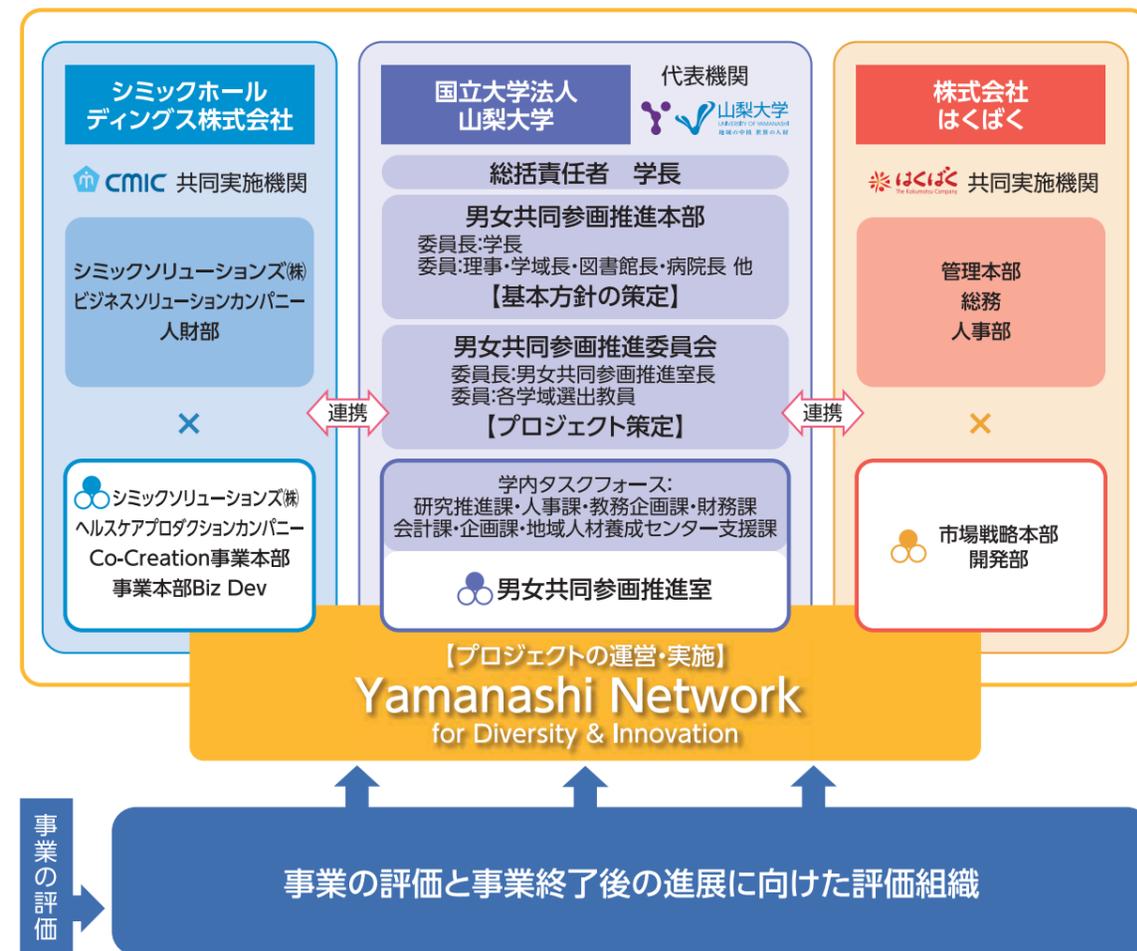


実施体制

本事業では、代表機関である山梨大学が医薬品の研究開発や付加価値向上などの各種支援を国内外で広く手掛けているシミックホールディングス株式会社、穀物販売を通じ人々の健康と豊かな食生活を実現することを理念とする山梨県内企業の株式会社はくばくと連携して、女性の能力を生かしたイノベティブな研究推進環境の創設による地域活性化のモデル作りを目指します。

「Yamanashi Network for Diversity & Innovation」を通じて、関係機関による連携・協力体制を構築しプロジェクトを牽引します。

連携体制



月 日	主な実施内容
4月	クロスアポイントメント教員継続
4月	【シミックホールディングス(株)】 C-PRESS vol.24発行 (ダイバーシティ&インクルージョンに関する取組掲載)
4月 27日	共同研究アドバイザーグループ定例会
5月	【シミックホールディングス(株)】 「ダイバーシティ&インクルージョン」トレーニング
5月	【(株)はくばく】 査読付雑誌『Microorganisms』 (11(5),2023) 掲載
5月 21日	【シミックホールディングス(株)】 第38回全日本視覚障害者柔道大会 シミックウェル(株)工藤博子選手優勝
6月	News Letter Vol.11発行
6月	【(株)はくばく】 実験医学増刊 Vol.41 No.10投稿文掲載
6月	【(株)はくばく】 査読付雑誌『Asia Pac J Clin Nutr』 (32(1),2023) 掲載
6月 5日	共同研究アドバイザーグループ定例会
6月 28日	第1回スキルアップセミナー「英語論文の書き方オンラインセミナー」
7月	【シミックホールディングス(株)】 一般社団法人こどもDX推進協会入会 (正会員)
7月 3~21日	【山梨大学】 ワークライフバランスに関するアンケート調査
7月 21日	ダイバーシティマネジメント研修会
8月 1日	第1回事業評価委員会及び第1回事業実施委員会 合同開催
9月	News Letter Vol.12発行
9月 29日	【(株)はくばく】 女性の健康セミナー

月日	主な実施内容
10月 10日	共同研究アドバイザーグループ定例会
10月 31日	【シミックホールディングス(株)】 セミナー「南ブラジル日系移住者巡回診療プロジェクト」
11月 4日	【(株)はくばく】学会発表（食物繊維学会第28回学術集会）
12月	News Letter Vol.13発行
12月 4日 5日	【シミックホールディングス(株)】 IBSA 柔道グランプリ大会 東京2023 シミックウェル(株)工藤博子選手銅メダル獲得
12月 5日	【山梨大学】山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞表彰式 女性研究者と中村学長との懇談会
12月 18日	共同研究アドバイザーグループ定例会
12月 20日	女性研究者研究報告会・交流会
12月 25日	山梨大学男女共同参画講演会
1月 19日	【(株)はくばく】 山梨大学大学院特別教育プログラム学生有志ワークショップ 招待講演
1月 25日	若手研究者育成セミナー 「外部資金獲得のための研究計画調書のグラフィックデザインセミナー」
2月	【山梨大学】ロールモデル集「ナシダイResearchers Vol.11」発行
2月 6日	次世代リーダー育成企画「女性社長対談」
3月	News Letter Vol.14発行
3月	令和5年度事業報告書発行
3月 6日	第2回事業実施委員会

連携して行った取り組み

■クロスアポイントメント制度を活用した共同研究体制の継続および活動内容

本取組は、共同実施機関または他の企業と大学間で行う共同研究の推進者として、専門分野や能力によって大学の一部講義の担当者として等、大学と企業内の活発な人事交流の促進を図ることを目的としました。

本制度を活用することで、山梨大学女子学生が複数の企業の女性研究者のロールモデルと出会う機会が得られ、副次的に女子学生の大学院進学や企業の研究職への就職の促進が期待されます。また、クロスアポイントメント制度を活用し採用された企業女性研究者においては、大学における活動を通し、管理職などの上位職への育成の機会となることが期待されます。

令和5年度は、昨年度に引き続き4名が山梨大学の特任助教として勤務し、令和6年1月1日付で1名が特任助教として採用になりました。各クロスアポイントメント教員は、共同研究の推進、講義、学内研究推進サポート等、様々な分野で活躍しました。

企業	氏名	所属、活動内容
株式会社はくばく	丸山 聡子	株式会社はくばく 市場戦略本部開発部研究開発課所属 生命環境学部地域食物科学科食品栄養学研究部門と株式会社はくばくで行う共同研究の推進を行う
シミックホールディングス株式会社	菊池 桜	シミックソリューションズ株式会社 ヘルスケアプロダクションカンパニー Co-Creation事業本部 事業本部 Biz Dev所属 医学部とシミックホールディングス株式会社で行う共同研究の推進を行う
シミックホールディングス株式会社	真島 奈都美	シミック株式会社 臨床事業第三本部所属 日本CRO協会CRA 医学部とシミックホールディングス株式会社で行う共同研究の推進を行う 生命環境学域における授業のゲストスピーカーとして、学生と人事交流を図る
株式会社JTB総合研究所	岡野 千帆	株式会社JTB総合研究所 経営企画部所属 チーフアナリスト 生命環境学部地域社会システム学科において、講義の一部を担当し、研究を行う
国立研究開発法人国立長寿医療研究センター	山越 貴水	国立研究開発法人国立長寿医療研究センター メディカルゲノムセンター・ゲノム機能解析室所属 研究員 工学部機会工学科機械工学コースにおいて、教育、研究を行う *令和6年1月1日付採用

(1)ダイバーシティ研究環境整備

■ダイバーシティマネジメント研修会

- 日時：令和5年7月21日（金）14:00～15:00
- 会場：山梨大学大村智記念学術館大村記念ホール
(Zoom同時配信)
- 主催：山梨大学男女共同参画推進室
- 共催：シミックホールディングス株式会社、株式会社はくばく
- 参加者：山梨大学および山梨県立大学の教職員、シミックグループおよび株式会社はくばくの社員
85名（会場37名、Zoom配信48名）
- 講師：石川法律事務所 所長 石川 恵（いしかわけい）氏
- 題目：事例に学ぶダイバーシティ&インクルージョンのススメ方
- 次第：開会挨拶
学長挨拶
講演者紹介
講演
質疑応答
閉会挨拶



感想

- ・分かりやすく丁寧な説明で知識の整理に役に立ちました。特にインクルージョンの捉え方は新鮮でした。
- ・ダイバーシティ・エクイティ&インクルージョンについて改めて理解を深めることができました。また、社会や企業にとってその推進は重要であると感じました。

(1)ダイバーシティ研究環境整備

■山梨大学男女共同参画講演会

- 日時：令和5年12月25日（月）14:00～15:30
- 会場：山梨大学大村智記念学術館大村記念ホール
(Zoom同時配信)
- 主催：山梨大学男女共同参画推進室
- 共催：シミックホールディングス株式会社、株式会社はくばく
- 参加者：山梨大学および山梨県立大学の教職員・学生、シミックグループおよび株式会社はくばくの社員
68名（会場32名、Zoom配信36名）
- 講師：NPO法人ファザーリング・ジャパン 理事/キャリアコンサルタント 高祖 常子（こうそとときこ）氏
- 題目：働き方を見直し、男性育休を広げるために
- 次第：開会挨拶
学長挨拶
講演者紹介
講演
質疑応答
閉会挨拶



感想

- ・管理職から育休を進めるような声掛けが必要であり、今後実践していきたいと思いました。
- ・育休取得率から、夫婦の実際の悩みなど具体的な問題まで幅広く知ることができ、有意義な講演会でした。
- ・同じ部署に育休中の方がいるので、興味深く聞くことができました。



山梨大学が行った取り組み

■キャリアアシスタント（CA）制度

ライフイベント中の研究者（※）は、研究活動のパワーダウンが懸念されます。山梨大学では、そうした時期にある研究者に対し、研究サポーターとしてキャリアアシスタント（以下「CA」という）を配置することで、ライフイベントと研究活動の両立を支援する制度を運用しています。

【支援対象者】

本学に在職する研究者のうち、共働き世帯又は一人親家庭の者でライフイベント中の者、ライフイベント中の配偶者がいる者、もしくはこれに相当すると男女共同参画推進室長が認める者。

【CAによる支援内容】

文献検索、データ整理・入力、図表作成、資料収集、実験補助、その他研究業務についての補助。

※推進室では「ライフイベント」及び「研究者」を以下のように定義しています。
 ライフイベント…妊娠、出産、育児（小学校卒業までの子の養育）、介護（2週間以上の期間にわたり日常生活を営むのに支障がある家族の生活支援や世話）
 研究者…常時勤務する教授・准教授・講師・助教・研究員など、府省共通研究開発管理システム（e-Rad）の研究者番号を付与されている者

●令和5年度CA制度利用者数

	研究者	CA
前期	15名	27名
後期	16名	28名

＼利用した研究者からの声／

- ・育児のための時間が確保できたことは、結果的に安定した研究継続につながり、研究・発表活動にも専念することができました。
- ・自身の仕事量が減ることで帰宅時間が早くなり、余剰時間を子育てに費やすことができました。
- ・研究活動に大きな支障なく、子どもを保育園へ送迎する時間をつくることができました。
- ・限られた時間の中で、産前と同等の分析やデータ解析を行うことができました。

＼CA学生からの声／

- ・大学の先生の研究や仕事の一端を担うことができ、とても勉強になりました。
- ・仕事をしながら自分自身の成長を感じることができ、大変充実しています。
- ・自分の研究に役立つ知識を得られてよかったです。
- ・もっと勉強したいと感じ、大学院進学を決意しました。

■産休・育休からの復帰支援制度

山梨大学では、女性研究者のための「産休・育休からの復帰支援制度」を設けています。この制度は、出産・育児によって研究活動が中断した研究者が、職場復帰を果たし、研究の停滞を取り戻すために、復帰後における研究活動及びそれに伴う経済的負担に対して支援することを目的とするものです。

【支援対象者】

支援の対象者は、本学に在職する研究者のうち、教授・准教授・講師・助教の職位にある者で、産後の特別休暇または育児休業から職場復帰して2年以内の者とする。

【助成金の対象】

助成金は、支援対象者が実施する研究活動に係る経費（物品費、旅費、謝金）に充てるものとする。

【助成額】

助成額は、10万円とする。ただし、予算の状況により助成額が減額される場合がある。

- 復帰支援制度 利用者
令和5年度 2名

■論文投稿費と英文校閲費支援制度

山梨大学では、女性研究者のための「論文投稿費と英文校閲費支援制度」を設けています。この制度は、ライフイベントにより研究活動が停滞した女性研究者の論文作成に伴う経済的負担の支援を行うことを目的とするものです。

【支援対象者】

本学に在職する研究者のうち、次の各号を満たす者とする。
 ライフイベント中、もしくはこれに相当すると男女共同参画推進室長が認める者。
 筆頭著者として論文を作成する者。

【支援内容】

助成額は、論文一編あたり上限5万円とし、助成金の用途は論文投稿費（英文校閲費を含む）とする。

- 論文投稿費と英文校閲費支援制度 利用者
令和5年度 5名

(1)ダイバーシティ研究環境整備

(1)ダイバーシティ研究環境整備

■保育園との連携

社会福祉法人宮前福祉会 宮前保育園との連携

山梨大学では、育児支援の一環として、「社会福祉法人宮前福祉会 宮前保育園」と協定を結んでおります。本学に在籍する教職員および学生は、宮前保育園が実施する一時預かり保育や病後児保育等を利用することができます。

また、学会等の開催の際に必要な託児所設置に関わる保育士派遣制度の利用も可能です。

○連携保育園

社会福祉法人宮前福祉会 宮前保育園（甲府市岩窪町379）
宮前保育園子育て支援センターShell&Beans

【宮前保育園 利用回数（令和5年4月～令和6年1月）】

令和5年度	一時預かり保育	病後児保育
4月	3回	利用なし
5月	8回	
6月	14回（学会時の利用含む）	
7月	8回	
8月	12回	
9月	16回	
10月	14回	
11月	14回	
12月	15回	
1月	19回	

共同保育所みかげの森との連携

山梨大学では、育児支援の一環として、「株式会社創街」と企業主導型保育施設の共同利用に関する協定を結んでおります。本学に在籍する教職員は、同社が設置した「共同保育所みかげの森」を従業員枠で利用することができます。

○連携保育園

共同保育所みかげの森（南アルプス市野牛島1828-63）

アソビスイッチ市場保育園との連携

山梨大学では、育児支援の一環として、令和5年度に「株式会社アソビスイッチ」と企業主導型保育所共同利用契約を締結し、同社が設置した「アソビスイッチ市場保育園」を提携企業枠で利用できるようになりました。

○連携保育園

アソビスイッチ市場保育園（甲府市国母6-6-8）

■ワークライフバランスに関するアンケート調査

調査概要

調査期間：令和5年7月3日（月）～7月21日（金）
調査方法：学内イントラネット「申請・調査支援システム」より入力
調査対象者：山梨大学教職員（附属学校、病院含むシステムに登録のある教職員）3,149人
回収率：36.1%（1,173件）（前年比：4.9%増）
調査目的：教職員のライフイベントやワークライフバランスに関する課題や要望を抽出し、男女共同参画推進に係る取組を充実させる。

調査内容：

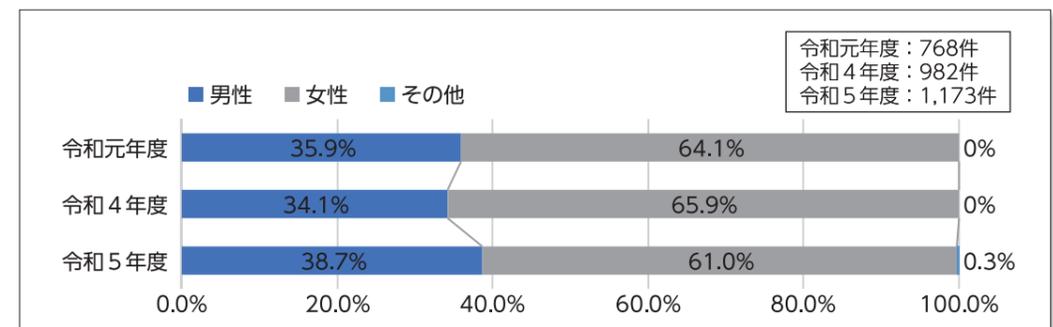
- (1) 回答者について
 - ①職種、②性別、③勤務形態、④所属、⑤年齢、⑥介護の有無
- (2) ワークライフバランスについて
 - ①自身のワークライフバランスに対する満足度、②年次休暇制度の利用状況、③17時以降の会議の出席頻度、④育児休業や介護休業の取得のしやすさ、⑤自身が担う家事の量の割合、⑥自身が担う育児の割合
- (3) ワークライフバランスの実現に必要な取組について
 - ①役員のリーダーシップ、②（学内）ワークライフバランス推進責任者の設定、③管理職の意識改革、④管理職以外の意識改革、⑤仕事量を減らす、⑥無駄な業務・作業をなくす、⑦効率良く仕事するよう工夫、⑧職員（教員）を増やす、⑨給料を上げる、⑩ノー残業デーの徹底、⑪福利厚生の実施、⑫勤務間インターバル制度（1日の勤務終了後、次の勤務の開始までに一定時間の継続した休息時間を与える制度）の導入、⑬テレワーク（在宅勤務）の導入、⑭フレックスタイム制の導入（柔軟な勤務時間設定）

結果（一部抜粋）

(1) 回答者について

性別

* 令和5年度における回答者の性別比率は、男性が38.7%、女性が61.0%であった。回答者性別比率に5%以上の大きな変化は認められなかったが、男性回答率は、令和4年度より4.6%増加した。

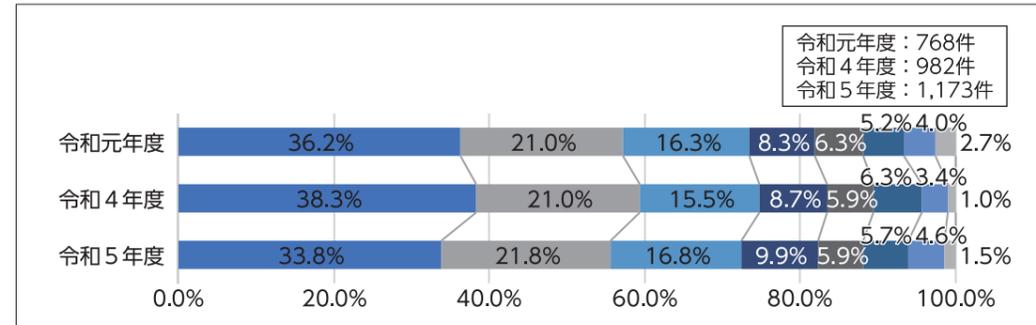


(1)ダイバーシティ研究環境整備

(1)ダイバーシティ研究環境整備

所属

*回答者の所属は、附属病院が33.8%と最も多く、次いで医学域が21.8%、事務部が16.8%であった。回答者の所属の比率は、5%以上の大きな変化は認められなかったが、附属病院の回答率が令和4年度と比較し4.5%減少した。

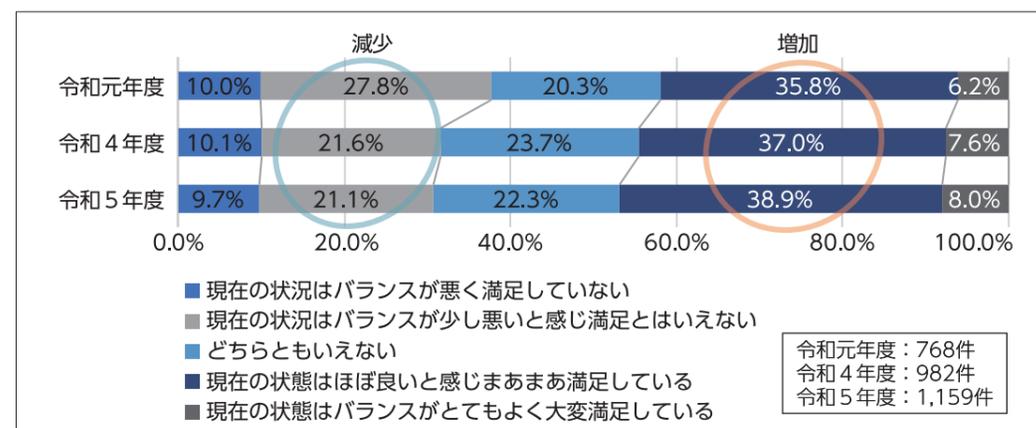


(2) ワークライフバランスについて

自身のワークライフバランスに対する満足度

*ワークライフバランスの現在の状態が「ほぼ良いと感じ、まあまあ満足している」および「バランスがとても良く大変満足している」と回答した教職員（以下、「バランス良い群」と記載。）は、約半数の46.9%であり、令和元年度より経時的に3.1%増加していた。

*ワークライフバランスの現在の状態が「バランスが悪く、満足していない」および「バランスが少し悪いと感じ、満足とは言えない」と回答した教職員（以下、「バランス悪い群」と記載。）とする回答比率は、減少傾向にあり、特に、「バランスが少し悪いと感じ満足とはいえない」と回答した教職員は令和元年度から経時的に6.7%減少した。

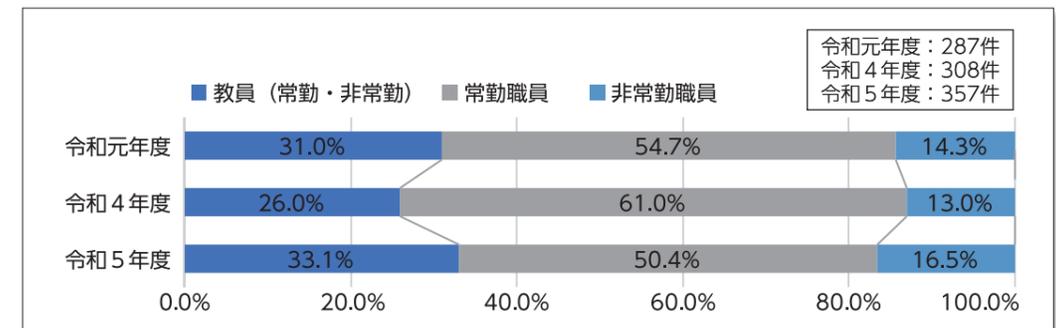


→ 「バランスが少し悪い」「バランスが悪い」と答えた方の属性

・職種および勤務形態

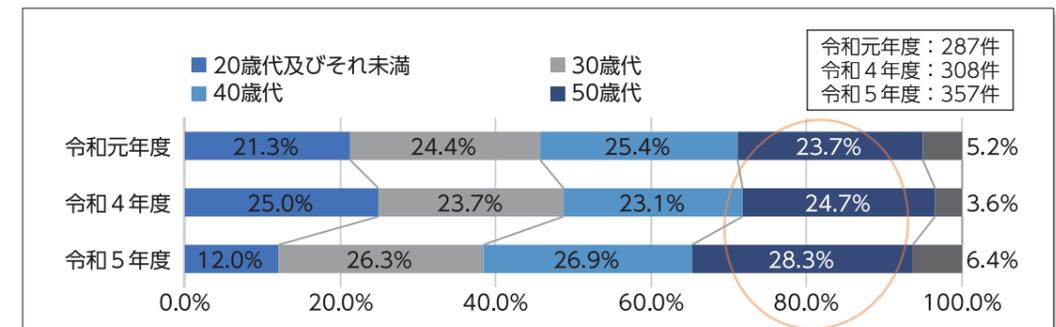
*令和5年度の「バランス悪い群」の職種は、教員（常勤・非常勤）が33.1%、常勤職員が50.4%、非常勤職員が16.5%であった。

*令和元年度および令和4年度と比較し、令和5年度は教員（常勤・非常勤）および非常勤職員において、「バランス悪い群」が増加していることが示された。



・年齢

*令和5年度の「バランス悪い群」が最も多い年齢は50歳代であり（28.3%）、次いで40歳代、30歳代であった。これらの年代は、令和元年度から増加しており、特に50歳代は増加幅が最も大きかった（4.6%）。



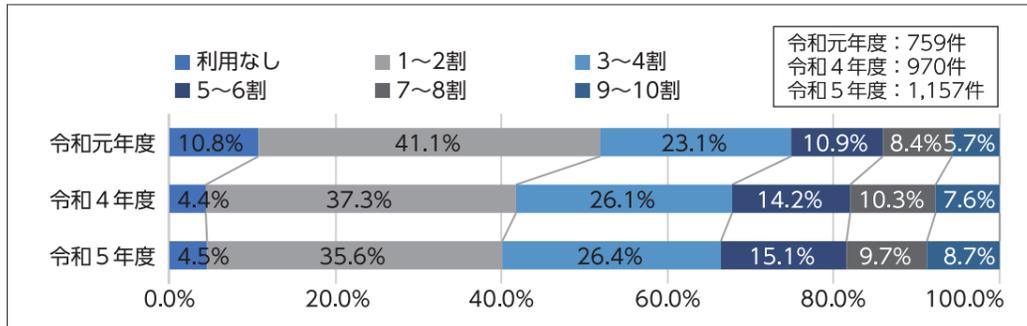
(1)ダイバーシティ研究環境整備

(1)ダイバーシティ研究環境整備

・年次休暇利用率

* バランスが「少し悪い・悪い」と回答した方の年次休暇利用率は、1～2割が最も多く35.6%、次いで「3～4割」の26.4%となっており、5割以上（「5～6割」「7～8割」「9～10割」を合算）の利用は33.5%であった。

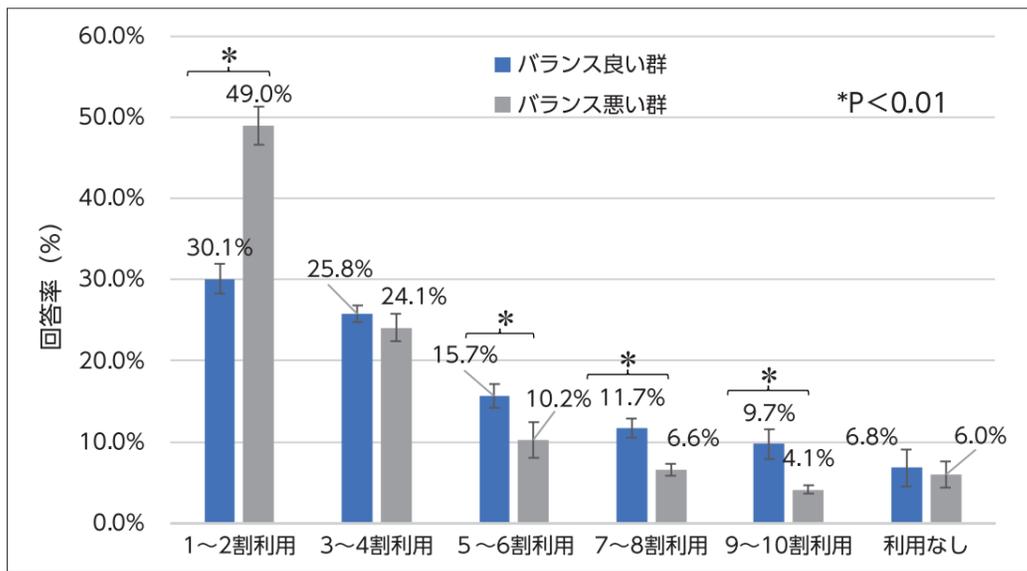
* 令和元年度からの調査により、年次休暇制度を1～2割程度利用している教職員の減少と5割以上利用している教職員の増加が認められた。



<補足>ワークライフバランスを「バランス良い群」、「バランス悪い群」の2群に分け、休暇利用とワークライフバランスとの関連を評価した。

* 休暇利用率が1～2割と回答した教職員においては、「バランス悪い群」が有意に高く、また、休暇利用率が上がるほど、「バランス悪い群」が低くなることが示された。

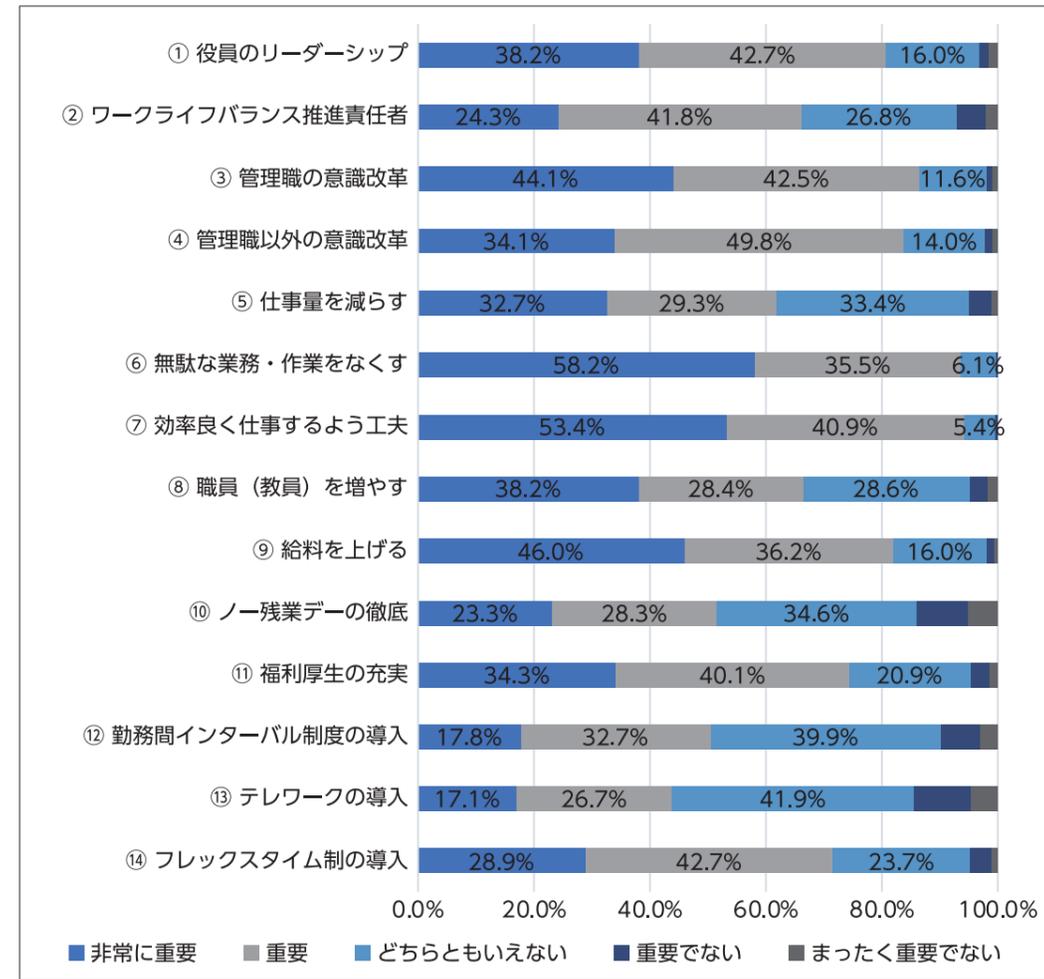
* 本結果より、年次休暇利用率は教職員のワークライフバランスの満足度に影響を及ぼす要因の一つとなる可能性が示された。



(3) ワークライフバランスの実現に必要な取組について

以下に、「ワークライフバランスの実現に必要な取組」の本年度調査結果を記す。調査を行った取組内容は、①役員のリーダーシップ（の発揮によるワークライフバランスの実現）、②（学内）ワークライフバランス推進責任者の設定、③管理職の意識改革、④管理職以外の意識改革、⑤仕事量を減らす、⑥無駄な業務・作業をなくす、⑦効率良く仕事するよう工夫、⑧職員（教員）を増やす、⑨給料を上げる、⑩ノー残業デーの徹底、⑪福利厚生充実の充実、⑫勤務間インターバル制度（1日の勤務終了後、次の勤務の開始までに一定時間の継続した休息時間を与える制度）の導入、⑬テレワーク（在宅勤務）の導入、⑭フレックスタイム制の導入（柔軟な勤務時間設定）である。

「非常に重要である」「重要である」とする回答が90%以上であった取組は、⑥無駄な業務・作業をなくす、⑦効率良く仕事するよう工夫するであった。次いで、「非常に重要である」「重要である」とする回答が80%以上であった取組は、①役員のリーダーシップ、③管理職の意識改革、④管理職以外の意識改革、⑨給料を上げる、の4項目であった。



(2) 女性研究者の研究力向上とリーダー育成

■スキルアップセミナー

「英語論文の書き方オンラインセミナー
(初級者向け)」

日時：令和5年6月28日（水）10:40～11:40
※アーカイブ配信

方法：ウェビナー

主催：山梨大学男女共同参画推進室

共催：山梨大学大学院教育マネジメント室、
シミックホールディングス株式会社、
株式会社はくばく

協力：英文校正エナゴ
(株式会社クリムゾンインタラクティブ・
ジャパン)

参加者：山梨大学および山梨県立大学の教職員・
学生、シミックグループおよび
株式会社はくばくの社員
126名（セミナー後の視聴も含む）

講師：米国ニューヨーク州立大学
バッファロー校 数学科 教授
増田 直紀（ますだ なおき）氏

タイトル：リジェクトへの対応方法－失敗を
チャンスに変える！

- 内容：
- ・ 査読プロセスの概要
 - ・ リジェクトの原因とは？
 - ・ リジェクトレターでよく記載される理由例
 - ・ リジェクトレターのサンプル
 - ・ 査読者のコメントを理解するには
 - ・ リジェクトに対処する方法
 - ・ リジェクトを回避するためのヒント



感想

- ・ 論文の投稿までのプロセスを詳しく知ることができて良かったです。
- ・ 査読者と言っても「ヒト」であり、そこを重視するのが必要という点が参考になりました。



(2) 女性研究者の研究力向上とリーダー育成

■若手研究者育成セミナー

「外部資金獲得のための研究計画調書の
グラフィックデザインセミナー」

日時：令和6年1月25日（木）13:30～15:00

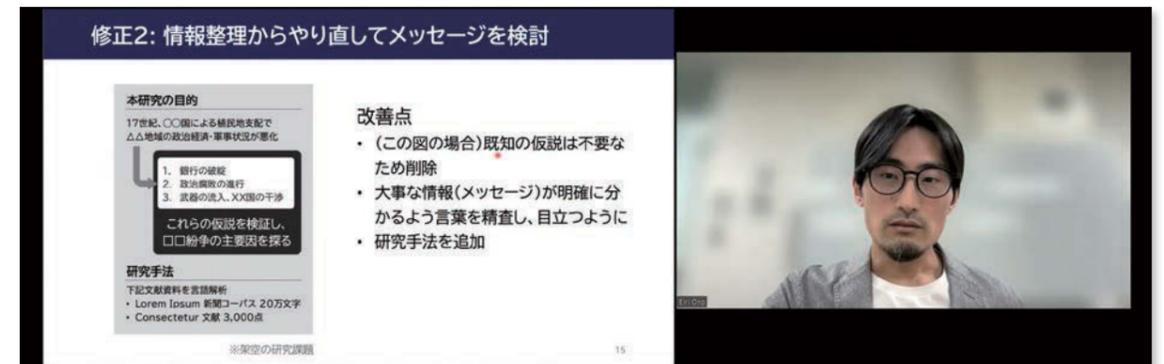
方法：Zoom配信

主催：山梨大学男女共同参画推進室

共催：シミックホールディングス株式会社、
株式会社はくばく

参加者：山梨大学および山梨県立大学の教職員・
学生、シミックグループおよび
株式会社はくばくの社員 100名

講師：京都大学 情報環境機構 助教
小野 英理（おの えいり）氏



感想

- ・ 根本となる重要なロジカルな考え方からデザインまで、ご説明いただき大変勉強になりました。
- ・ 情報整理、伝える内容の優先順位付け、早速実践してみようと思います。

(2) 女性研究者の研究力向上とリーダー育成

■女性研究者 研究報告会・交流会

令和5年度は、企業との共同研究及び、地域貢献型研究を行っている山梨大学女性研究者の研究報告・交流会を行いました。今年度は、学内プロジェクトと共同で開催することにより、研究の紹介や発表を通し、他の研究者や学生、企業の方々との積極的な交流を目的として実施しました。

- 日時：令和5年12月20日（水） 14:00～17:00
- 会場：山梨大学甲府キャンパス大学会館
- 主催：山梨大学男女共同参画推進室
- 共催：山梨大学URA・社会連携センター、シミックホールディングス株式会社、株式会社はくばく
- 参加者：山梨大学教職員・学生、山梨県立大学教職員、シミックグループおよび株式会社はくばくの社員 79名
- 次第：開会挨拶
ポスターセッション
フリーディスカッション
閉会挨拶

女性研究者
研究報告会・交流会
ダイバーシティが牽引する地域活性化とイノベーション

ナシダイ諸学融合シンポジウム
内にて開催 ※要紙を参照ください

2023 12.20 (Wed) 14:00～17:00 (13:00開場)
山梨大学 大学会館

プログラム
13:00～ 開場、研究紹介ポスター掲示
14:00～ 開会挨拶(中村 和彦 学長)
14:00～16:00 ポスターセッション
16:00～ フリーディスカッションタイム
16:50～ 閉会挨拶(寺 晴晴 理事)

対象
山梨大学教職員・学生
シミックグループ社員/株式会社はくばく社員

申込
事前申込を下記URLまたはQRコードよりお願いいたします
<https://forms.yzu.ac.jp/event/20231220>
申込締切 12/11(月)

主催 山梨大学 男女共同参画推進室 共催 山梨大学 URA・社会連携センター
シミックホールディングス株式会社/株式会社はくばく
山梨大学 男女共同参画推進室 E-mail: danjo@yzu.ac.jp TEL: 055-270-8330



感想

・学長、理事の先生方、他学部の先生方、研究協力の先生方、スタッフや他大学の方々・様々な立場の方々から異なる視点の有益なご意見や、温かなお言葉をいただきました。私の方からも、研究進捗の上で困っていることを直に相談することもできました。励ましていただけ、大変ありがたかったです。(抜粋)

(2) 女性研究者の研究力向上とリーダー育成

山梨大学が行った取り組み

■地域貢献型研究支援

本事業では、「女性研究者育成」を連携の中心に置き、産学間の活発な人材交流によって、女性の能力を生かしたイノベティブな研究を推進する環境を創設し、地域人材の育成と産業活性化への貢献を目指しています。

取り組みの一つとして、地域の活性化につながる共同研究を進めている「女性研究者」を対象とし、令和5年度は公募により研究支援を行いました。

・地域貢献型研究支援 (計5件)

研究者	所属	分野	研究テーマ
岡松 恵	教育学域 教育実践創成講座	地域貢献型	自然共生を推進する山梨県における「捕獲鹿茸」の継続的活用を促す教材提案
原井 望	医学部内科学講座 糖尿病・内分泌 内科学教室	地域貢献型	糖尿病・糖尿病予備軍の早期発見・診断、糖尿病治療の中断予防および歯科における観血的治療時の合併症予防を目的とした歯科医院受診時における血糖値測定
井上 絵梨	ワイン科学 研究センター	地域貢献型	山梨県内で栽培されている赤ワイン用ブドウ品種の着色に関与するフェノール化合物の網羅的解析から見る気候変動適応度の評価
斉藤 史恵	ワイン科学 研究センター	地域貢献型	日本ワインのフレーバーの可視化
井上 久美	工学域 基礎教育センター	地域貢献型	亜硫酸オキシダーゼを用いるワイン中亜硫酸の簡易定量法の開発

■ Coの花フェロースhip

Coの花フェロースhip制度は、将来を担う創造性に富んだ女性研究者の育成に向け、研究に専念できる環境の提供とキャリアパスの確保を支援するもので、大学院博士課程に在籍する優秀な女子学生に対し、研究専念支援金及び研究費が支給されます。

【令和5年度Coの花フェロースhip支給対象学生】

	所属	氏名	研究計画	指導教員
後期	大学院医工農学総合教育部 博士課程 統合応用生命科学専攻 生命工学コース 2年	徐卓然 じょたくぜん	Analysis of Kdm4d mutant mice that exhibit male infertility. (Kdm4d 遺伝子欠損マウスが示すオス不妊表現型の解析)	生命環境学部 生命工学科 准教授 石内 崇士

■ 山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞

山梨大学男女共同参画推進室では、平成28年度に、優れた研究成果を挙げた本学の女性研究者を顕彰することにより、その研究意欲を高め、将来の学術研究を担う優秀な女性研究者の育成及びこれによる男女共同参画の促進等に資するため、山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞を創設しました。表彰の対象者は本学に所属する女性研究者（大学院生・研究員を含む）または本学の女性研究者を研究代表者とする研究グループで、次の各号に掲げる賞の区分に応じて行います。

- 優秀賞** 教育研究のマネジメントにおいて優れた業績を挙げたと認められる個人、又は、学術上優れた研究成果を挙げたと認められる個人、若しくは研究グループ
※個人又は研究グループの研究代表者には、大学院生及び研究員は含まない。
- 奨励賞** 40歳未満の若手研究者又は博士取得後8年未満（ただし、産休・育休期間を除く）で、優れた研究成果を挙げることが期待されると認められる個人、若しくは研究グループ

- 日時:** 令和5年12月5日 (火) 14:00~14:30
- 会場:** 山梨大学大村智記念学術館大村記念ホール
- 次第:** 列席者紹介
受賞者紹介
各賞授与
学長祝辞
受賞者挨拶
記念撮影



受賞者: 優秀賞 発生工学研究センター 助教 若山 清香
「宇宙繁殖学～人類は宇宙で子孫を残せるのかを探究する～」
奨励賞 医学部附属病院検査部 助教 大石 沙織
「血小板CLEC-2の研究：マウスからヒト、基礎から臨床へ」



(2) 女性研究者の研究力向上とリーダー育成

■女性研究者と中村学長との懇談会

令和5年度は、「女性研究者と中村学長との懇談会」を山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞表彰式終了後に開催しました。本学で活躍する歴代の山梨大学男女共同参画学術研究奨励賞受賞者11名と中村 和彦 学長、小林 明 理事（男女共同参画・特命）、志村 結美 室長により、女性研究者を取り巻く研究環境や女性研究者の活躍などについて意見交換を行いました。

懇談会では、研究内容の紹介を交えた自己紹介から始まり、女性研究者から日々感じている学内の制度や施設に対する率直で具体的な要望が多数出されました。中村学長からは、「気が付いたことや困ったことがあったら言っていただきたい。すぐに対応を検討する」との力強い発言があり、今後の大学の取組みなどについても説明がありました。

本学初の試みとなりましたが、和やかな雰囲気の中、活発な意見交換の場となりました。

日時：令和5年12月5日（火）14:30～15:30
会場：山梨大学大村智記念学術館大村記念ホール
次第：自己紹介

研究環境について意見交換
女性（研究者）活躍についての意見交換
記念撮影



(3) 女性研究者の上位職登用、裾野拡大

連携して行った取り組み

■ News Letterの発行



Vol.11
(令和5年6月発行)

Vol.12
(令和5年9月発行)



Vol.13
(令和5年12月発行)



■事業実施組織 (Yamanashi Network for Diversity & Innovation) による委員会
 第三者機関による事業評価委員会 (合同開催)

日時：令和5年8月1日 (火) 13:30~15:00

方法：学内委員 - 山梨大学甲府キャンパス本部棟5階 第一会議室
 学外委員 - Zoomによるオンライン開催

参加者：

事業評価委員	飯野 奈津子 氏 (一般社団法人 日本専門医機構 理事) 古澤 善彦 氏 (山梨県男女共同参画・共生社会推進統括官) 佐久間 悟 氏 (株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ 代表取締役社長)
事業実施委員	代表機関： 山梨大学 志村 結美 (男女共同参画推進室長) 市川 満 (理事 (財務・施設・産学官連携)) 小林 明 (理事 (男女共同参画・特命)) 山村 裕美 (男女共同参画推進室 特任助教) 共同実施機関： シミックグループ 金丸 恭子 氏 (財務・施設・産学官連携) 佐々木 純一 氏 (財務・施設・産学官連携) 株式会社はくばく 田邊 征治 氏 (取締役管理本部長) 小林 敏樹 氏 (市場戦略本部開発部課長)

- 次 第：1. 参加者自己紹介
 2. 事業の評価について
 ① 評価書記載方法について
 ② 令和4年度取組説明 連携して実施している全体の取組及び山梨大学の取組
 ③ 令和4年度取組説明 各共同実施機関 (シミックグループ、(株)はくばく) の取組
 ④ 質疑応答
 3. 今後の事業実施について
 4. その他

令和4年度ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ事業評価委員会
 評価結果

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ (牽引型) 事業に関し、令和4年度の取組の評価と今後の改善点を明らかにするために、外部評価委員による評価を行った。

実施期間：令和5年7月25日 (火) ~令和5年8月1日 (火)

実施方式：各種資料 (令和4年度事業報告書、News Letter Vol.7~10、令和4年度ロールモデル集、企業調査報告書、説明スライド、外部評価委員評価表等) を送付の上、8月1日 (火) 13:30からのWebによる事業評価委員会において、事業報告と質疑応答、意見交換を行い総合的に評価

事業評価委員：

- ・飯野 奈津子 氏 一般社団法人 日本専門医機構 理事
- ・古澤 善彦 氏 山梨県男女共同参画・共生社会推進統括官
- ・佐久間 悟 氏 株式会社ヴァンフォーレ山梨スポーツクラブ 代表取締役社長

評価概要：総合評価、取組内容、目標達成度、連携した取組とその成果および各機関の取組とその成果について、S、A、B、Cの4段階で評価が行われた。いずれの項目においても、A以上の評価を得た。また、評価委員からは、「(本取組により) 好循環な環境ができつつあり、行動変容につながっていると感じている」、「研究活動に女子学生を巻き込むような取り組みなどは評価できる」、「企業と連携し、産学官連携で女性活躍の場を構築していくことについて、とても心強く感じている」等の評価を受けた。また、「質の良い (女性) 研究者を育てるためには、まず、母数となる (女子) 学生を増やす必要があるが、数値目標にとらわれすぎず、良い環境の提供を継続し、その結果として女性研究者が活躍できる場を構築できれば良い」というアドバイスをいただいた。課題として、情報発信力が挙げられ、SNS等を活用し、若い世代にも伝えることが重要とコメントを頂いた。

表1：【評点分布】

	評点	総合評価	取組内容	目標達成度	連携した取組	各機関の取組
S	5	1	3		2	
A	3	2		3	1	3
B	2					
C	0					
平均点		3.7	5.0	3.0	4.3	3.0

〈評価基準〉 S：計画を上回って実施している、A：計画を十分に実施している
 B：計画を十分に実施していない、C：計画を実施していない

図1：令和4年度 事業評価委員会評価

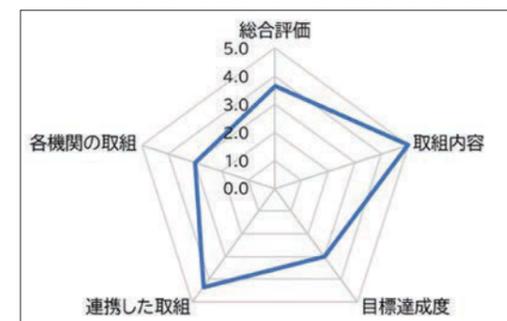
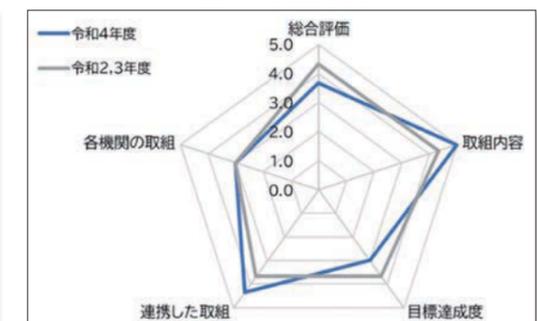


図2：年次比較



(3) 女性研究者の上位職登用、裾野拡大

■ 科学技術振興機構 (JST) による中間評価

本学は、令和2年度に本事業に採択され、選定から3年目となる令和4年度に中間評価が発表されました。令和4年6月に提出した中間評価成果報告書及び11月に受審した面接審査の結果を踏まえ、「総合評価A」を受けました。詳細は以下のとおりです。

評価結果：

総合評価	目標達成度	取組	取組の成果	実施体制	今後の進め方
A	a	s	a	s	a

評価コメント (一部抜粋)：

代表機関は、既存の「女性限定クロスアポイントメント制度」を活用し2企業と連携することにより、山梨県内の女性研究者・技術者の人事交流を促進するとともに、女性研究リーダーによる地域貢献型共同研究を推進した。女性研究人材の育成と地域貢献を同時並行で精力的に進めており評価できる。地域貢献型共同研究には、女性研究者・技術者のみならず、大学院博士課程の女子学生も参画しており、女性研究者の次世代育成にも繋がっている。

また、連携する3機関全てにおいて上位職、管理職への女性の登用が進み、副学長、社長、部長への就任、教授や准教授への昇任が行われたことは評価できる。代表機関は、工学系教員の女性限定公募等、自然科学系女性研究者の増加を図る取組を実施したが、効果は限定的であり課題が残る。今後は、実効性のより高いポジティブ・アクションの立案を期待する。

・今後の進め方

補助期間終了後も代表機関を中心とした連携体制を維持し、一部規模を縮小する取組はあるものこれまで実施した取組を自主経費により継続、発展させる計画であり評価できる。今後は、より実効性の高いポジティブ・アクションを立案し、自然科学系の中でも特に工学系及び農学系の女性研究者・技術者の増加、上位職への登用を図ることを期待する。

(3) 女性研究者の上位職登用、裾野拡大

山梨大学が行った取り組み

■ ロールモデル集「ナシダイ Researchers」の発行

山梨大学男女共同参画推進室では、学生のみなさんが研究職に興味を持ち、将来の職業選択の幅が少しでも広がることを願って、山梨大学の研究者を紹介するロールモデル集「ナシダイ Researchers」を作成しています。令和5年度発行のVol.11では「研究者になったきっかけ」や「山梨大学を選んだ理由とその魅力」、「学んでおいて役立ったこと」に加えて、1日および1週間の生活実態について、5名の先生方および4名の大学院生にご紹介いただいています。本冊子は、山梨大学教職員・学生のほか、山梨県内の中学校、全国の高校、他大学等へも配布しております。



Vol.11
(令和6年2月発行)



シミックホールディングス株式会社が行った取り組み

■報酬体系を刷新した人事制度へ改定

シミック株式会社は、社員の役割や発揮価値に合わせたメリハリのある処遇を実現するため、令和5年4月より新たな人事制度を導入しました。それにより、役割ベースの処遇制度への移行、初任給の改定が行われました。

■広報誌「C-PRESS」

C-PRESS vol.24(令和5年4月発行)にて、ダイバーシティ&インクルージョンに関する記事として、障がい者メンバーがいきいきと各自の能力を発揮できる職場について掲載しました。

■e-ラーニングシステム（Compliance Wire）にてトレーニングを実施

「ダイバーシティ&インクルージョン」のトレーニングを、シミックグループ全従業員を対象として、令和5年5月に実施しました。

■視覚障害者柔道大会におけるシミックウェル株式会社 工藤 博子 選手の活躍

第38回全日本視覚障害者柔道大会の女子57kg級でシミックウェル（株）所属の工藤博子選手が優勝し、IBSA 柔道グランプリ大会 東京2023の女子57kg級（J2）で同選手が銅メダルを獲得しました。

- ・第38回全日本視覚障害者柔道大会 優勝
 - ・IBSA 柔道グランプリ大会 東京2023 銅メダル
- 日 時：令和5年5月21日（日） 日 時：令和5年12月4日（月）・5日（火）
場 所：講道館（東京都文京区） 場 所：東京体育館（東京都渋谷区千駄ヶ谷）

■一般社団法人こどもDX推進協会に入会（正会員）

こどもDX推進協会は、主にこどもDXに関わる各種システム標準化、各種調査・研究、こどもDXに関する政策提言などを行っております。さらなるこどもDXの推進に貢献するべく正会員として入会しました。（プレスリリース：令和5年7月18日（火））

■シミックホールディングス株式会社での女性役員の登用

令和5年10月1日付で、シミックホールディングス株式会社の人事異動が行われました。役員10名中4名が女性であり、性別にかかわらず活躍できる企業として更なるサービスを提供してまいります。

■シミック株式会社でのフレキシブルタイムの拡大

シミックグループのシミック株式会社において、勤務制度をより柔軟な制度とするため、フレキシブルタイムを拡大し、コアタイムの設定が廃止されました。多様な就労ニーズにこたえ、一人ひとりがエンゲージメント高く、「IKIGAI」をもって自立/自律して働ける環境へとさらに整備されました。

■南ブラジル日系移住者巡回診療プロジェクト

- 日 時：令和5年10月31日（火）
場 所：シミックホールディングス 浜松町オフィス

シミックグループが支援しているブラジル日系人医師 森口エミリオ秀幸氏の「南ブラジル日系移住者巡回診療プロジェクト」のセミナーが開催されました。森口先生の祖父の細江先生がはじめたブラジル日系移住者への巡回診療についてご講演いただきました。

株式会社はくばくが行った取り組み

■論文掲載

- ・査読付雑誌『Microorganisms』（11(5),2023）に、クロスアポイント教員である丸山が First authorとして執筆した報文「Characteristic Gut Bacteria in High Barley Consuming Japanese Individuals without Hypertension」が掲載されました。
- ・査読付雑誌『Asia Pac J Clin Nutr』（32(1),2023）に、山梨大学生命環境学部地域食物科学科 望月研究室との共同研究をまとめた、はくばく研究員の執筆報文「Co-ingestion of traditional Japanese barley mixed rice (Mugi gohan) with yam paste in healthy Japanese adults decreases postprandial glucose and insulin secretion in a randomized crossover trial」が掲載されました。
- ・実験医学増刊 Vol.41 No.10に、クロスアポイント教員である丸山が主に執筆した、「大麦の健康効果を予測する機械学習モデル」との投稿文が掲載されました。

■学会発表

- 日 時：令和5年11月4日（土）・5日（日）
場 所：愛媛大学
学会名：食物繊維学会第28回学術集会

クロスアポイント教員である丸山より、「大麦の摂取が老齡モデルマウスの代謝異常に及ぼす影響」との演題で学会発表がなされました。

■「女性の健康セミナー」開催

- 日 時：令和5年9月29日（金）
場 所：はくばく山梨本社

はくばく山梨本社に看護師をお招きし、「女性の健康」について講演していただきました。講演では健康診断の重要性や、女性特有の疾患とその対応、家族の理解の重要性を交えてお話しいたき、男性女性問わず、多くの社員が聴講しました。

■招待講演

- 日 時：令和6年1月19日（金）
場 所：山梨大学甲府キャンパス 大学会館多目的ホール

山梨大学大学院特別教育プログラム学生有志主催ワークショップにおいて、クロスアポイントメント教員であり、山梨大学社会人大学院生（博士課程）である丸山による特別招待講演が行われ、大学院生を含む多くの大学関係者が聴講しました。

ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型） 令和5年度事業報告書

代 表 機 関	国立大学法人山梨大学
共同実施機関	シミックホールディングス株式会社 株式会社はくばく
発 行	令和6年3月
作 成	国立大学法人山梨大学 男女共同参画推進室
住 所	〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37
電 話	055-220-8350
F A X	055-220-8351
E - m a i l	danjo@yamanashi.ac.jp
U R L	https://danjo.yamanashi.ac.jp/

「ダイバーシティが牽引する地域活性化とイノベーション～食・医療・女性のパワーが拓く未来社会～」の令和5年度事業報告書の著作権は、国立大学法人山梨大学男女共同参画推進室に帰属します。よって、本冊子（デジタル加工を含む）の転載および二次利用に際しては、男女共同参画推進室の許諾を必要とします。



文部科学省科学技術人材育成費補助事業
ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ(牽引型)
YAMANASHI NETWORK
FOR DIVERSITY & INNOVATION

